

食品に関するリスクコミュニケーション

食品安全に対する消費者の理解を増進するため、幅広い世代の消費者に対して、多様なリスクコミュニケーション(リスコミ)の機会を提供することが重要

リスクコミュニケーション: リスク評価やリスク管理を含むリスクアナリシス(リスク分析)の過程において、消費者、事業者、行政機関など関係者間で相互に情報の共有や意見の交換をすること

徳島県内で、多様な主体・手法によるリスクコミュニケーション等の推進方法の検討

各種リスコミ等の効果の検証、全国展開できる内容を構築

アンケートによる

リスコミの効果検証のための調査

昨年度実施した調査結果を分析・検討し、効果的リスコミの実施・効果の検証
小中学校での出前授業等を行い、効果的な教材等の開発・検討

リスクコミュニケーターの

養成に係る調査・研修結果の分析

・全国の先進的取組や参考事例等を調査分析
・社会心理学的要素も織り込んだ実践的なシラバスの作成及び研修結果の分析等

29年度の主な成果

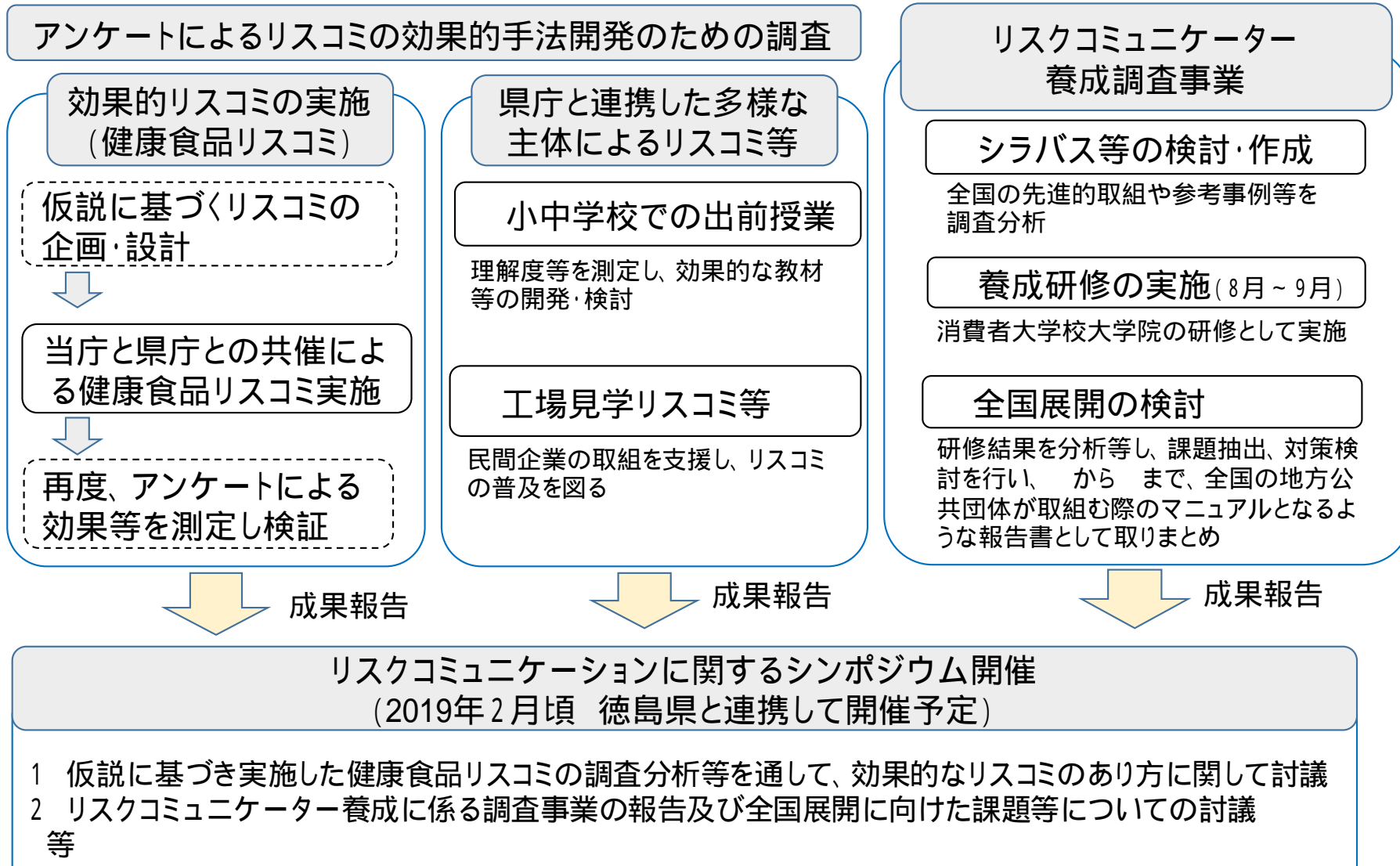
- ・徳島県、県内関係団体等と共催し、健康食品をテーマに3回のリスクコミュニケーションを実施
- ・各会場において、効果検証のため共通のアンケート調査を実施

【リスクコミュニケーションの様子】



30年度は、全国展開に向け徳島県と連携し、アンケートによるリスコミの効果的手法の開発のための調査、リスクコミュニケーターの人材育成手法の開発等に取り組む。

食品に関するリスクコミュニケーション概要



効果的リスクコミュニケーションの実施及び調査 (テーマ:健康食品)

< 統一の伝達内容(訴求ポイント)を設定 >

健康食品は**効果効能は認められていない**(薬 食品)
過剰摂取の危険 **推奨量超過、医薬品との競合**
その他

訴求ポイントがどのように理解されたかが分かるアンケート調査の設計・実施

アンケート調査の概要(各会場共通)

調査方法

・リスクミ終了後調査(所要15分)

内容

属性(性別、職業、年齢、医薬品や健康食品の摂取状況等)に加え、

・主観的理解度

・リスクミ評価

・科学的情報に対する個人特性



訴求ポイントを意識しリスクミを実施

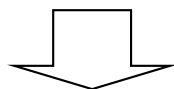
平成29年11月5日(日)
徳島県薬剤師会、徳島県、消費者庁共催

平成29年12月17日(日)
徳島大学、徳島県、消費者庁共催

平成30年3月3日(土)
日本食品安全協会徳島県部会、徳島県、消費者庁共催

アンケート調査の分析から新たなリスコミの企画・設計及び実施・再測定

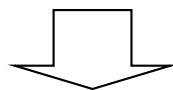
有効回答者数 約400人(3会場合計)



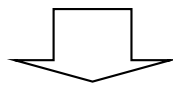
因子分析の手法により参加者の主観的理解を分析

仮説に資する分析結果

訴求ポイントに関連する「健康食品に対する過度な期待」や「医薬品との飲み合わせ」の双方の理解度が高い人には、共通して「批判的評価リテラシー」が影響している。



【仮説】 **批判的評価のリテラシーを涵養**するプログラムがリスコミで効果的に実施されれば、伝達内容(訴求ポイント)の理解度が増す。



【平成30年度の健康食品リスコミにおいて反映】

プログラムの中に、批判的評価リテラシーに関する講演を行う。
批判的評価リテラシーの低い人にも理解し易い内容とする。



徳島県と連携し、各会場共通のアンケート調査を実施し、再度検証。

リスクコミュニケーターの養成に係る調査

シラバス等の作成

- ・全国の先進的取組や参考事例等について情報収集等
- ・必要とされる知識や技術等について検討(アンケート調査結果を準用)
- ・養成講座のシラバスや運営・管理等について検討

全国展開に向けた検討

- ・研修結果を分析・評価
- ・全国展開に向けた問題点を抽出、対策を検討

報告書

から までの取組等について、全国の地方公共団体が取組む際のマニュアルとなるような報告書として取りまとめ

養成研修の実施(全5日 10講座)

消費者大学校大学院(徳島県運営)において実施

食品安全リスクコミュニケーター・食品表示コース
午前:10:00~12:00、午後:13:00~15:00

<第1回>
(入学式)

<第2回>
~
<第9回>
テーマ別に、
講義、見学会、
ワーク等

<第10回>
(修了式)

講義実施日:8/28、9/4、11、18、25(各日2講義)

<期待できる効果>

県は当該研修を「消費者大学校大学院において知事が定める課程」として認め、食品表示適正化推進員が受講する研修と位置づけるため、受講後のコミュニケーターの積極的な情報発信等の活動が期待できる。